

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0902020

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	1 災害予防対策・危機管理対策の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	民有林火災予防巡視事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	15 消防支署 4 住民生活課	
事業指標	林野火災の未然防止や早期発見	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
事業目標	巡視員の配置	関係例規・法令名		
住民参加 住民協働	1 雄武町林野火災予防消防対策協議会	関係個別計画名	1 雄武町地域防災計画	

591	全体計画 事業内容	平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容	
計 画 内 容	・巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	3,000	600	600	600	600	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	3,000	600	600	600	600		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	3,000	600	600	600	600	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	3,000	600	600	600	600		
関 連 事 項	(特定財源の詳細等)		(実施内容等) 巡視員の配置 3名	(実施内容等) 巡視員の配置 3名	(実施内容等) 巡視員の配置 3名	(実施内容等) 巡視員の配置 3名	
	【評価・実績】						
			※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名	巡視員の配置 3名
		年度達成率	100%	100%	100%	100%	100%
	全体達成率	20%	40%	60%	80%	100%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	

事業名	民有林火災予防巡視事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	石井 弘道
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	福田 泰弘

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	民有林	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	巡視員の配置 3名	
【抱える課題やニーズは】	林野火災の絶滅	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	林野火災の未然防止や早期発見	① 巡視員の配置 /巡視員の配置実績	目標年度	平成24年度
			目標値	3名
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	安心して暮らせる町づくり	②	実績値	3名
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①巡視員の配置	林野火災の未然防止や早期発見を図るため、特に注意を要する予防強調期間に巡視員3名を配置し、警防思想の普及宣伝や巡視活動を実施。	目標年度	年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0! %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	災害予防対策を図るための事業であり、林野火災の未然防止の取り組みは、行政が責任を持って行っていく必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	当該事業を実施しない場合、警防意識の向上が図られず、林野火災の未然防止や早期発見に影響を及ぼす。
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	一般入林者等へ広く予防啓発を促すことにより、効果的な予防対策が行われた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	本事業については巡視員の配置を行うものであり、巡視する期間は林野火災危険期間のうち、特に注意を要する予防強調期間に実施するもので、充分コスト削減に努めている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減	
課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

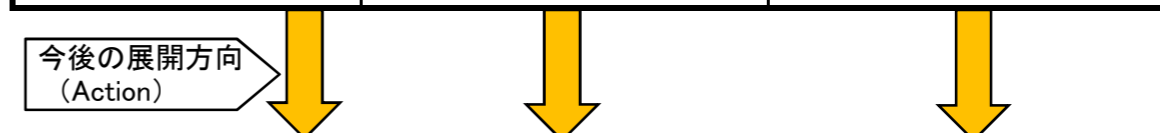
公平	判断の理由	森林が持つ公益的機能の恩恵を誰もが享受している。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
一般入林者等へ広く予防啓発を促すことにより、効果的な予防対策に繋がるので、林野火災の未然防止を図るうえで、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
山林は貴重な財産であり、一度山火事が発生すると大規模な災害に発展することも予想されるところであり、巡視活動はもとより警防意識の向上を図ることは重要と考えられるので、引き続き継続して実施するのが適当である。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止